

附圖	本籍地	高野	主	事	特
/	⊙				⊙

西村實美

昭和三十七年... 昭和三十八年... 昭和三十九年... 昭和三十九年二月三日

本籍地  
現住所

獨立混成第四旅團砲兵隊第一中隊

昭和三十七年徵集 陸軍二等兵 西村實美  
內地港灣出發年月日 昭和三十八年一月二日  
事變地到着年月日 昭和三十八年一月二日  
勤務概要

昭和三十八年一月十二日獨立混成第四旅團砲兵隊第二中隊編入同月同日依り三月三日迄陽泉附近ニ在り石太線及同蒲線兩側地區ノ警備

一發 病 年月日 昭和三十八年二月十三日  
一發 病 場所 中華民國山西省平定縣陽泉  
一病 名 西 肺 浸 潤  
一發 病 狀 況

本症ハ氣候風土異ナル山西省平定縣陽泉ニ在リテ初年兵被教育者トシテ  
酷寒ヲ冒シ日夜繁劇ナル演習訓練ニ專念中二月十三日頃ヨリ時々前胸  
部疼痛及盗汗ヲ訴フルニ依リ受診ス

右本症誘因ヲ探究スルニ本人ハ既往症ニテ八才時ヨリニ才到ル間心臓脚  
氣ニ罹患セルモ全治シ他疾患ナク頑強ナル体躯ニテ入營ス 入隊スルヤ本  
業基本教育及渡支準備ニ日夜精勵シアリテ昭和十八年一月二日屯營出  
發短時間ニシテ繁劇ナル荷物列車積載作業ニ從事シ長途列車輸送  
後下関ニ於テ下車荷物卸下ニ從事シ亦々乗船ニ際シテハ對空警戒及荷  
物搭載ニ從事シ亦出帆スルヤ當日激浪ナルモ換氣採光採暖設備全ク  
無ク船舶内ハ極メテ狹隘ニシテ坪十一名トシ横臥スルヲ得ス 寒氣嚴シキ吹雪  
中動搖激シキ甲板ニ在リテ對空對潛警戒歩哨等ニ服シ釜山ニ上陸スル  
氣温急変低下セル酷寒ヲ冒シ荷物卸下作業ニ引續キ貨物列車ハ隊屬  
荷物搭載ニ從事シ釜山依リ狹隘ナル列車内ハ一車輛四十五名收容ニシテ採  
暖設備ナク休養充分ナラス車酔等セルモ生シ本人ハ自發的ニ警戒  
歩哨不履番 食事分配等ニ從事ス

特ニ敗殘兵出沒スル地域列車運行ハ順調ナラス 給與モ混合食給與ヲ受ケ  
ルコト甚シク改警戒歩哨ヲ増加スル等對敵警戒ノ多量軍裝ヲモ解クコトナク勤  
務シ中華民國內西省平定縣陽泉ニ到若セリ 長途輸送ノ疲勞モ癒スル  
暇ナク氣候風土ニ變セル酷寒ヲ冒シテ本業基本教育ニ演習訓練ノ  
傍ラ部隊主カノ雨ニ出撃討伐等ニ依リ其間分哨勤務ニ後方連絡掩  
護等晝夜繁劇ナル任務ヲ遂行スルト共給與糧秣補給圓滑ナラザ  
ルトシ粟高粱等糧食ニシテ副食物モ僅少ナルカ上ニ休養ノ暇モナクシメ  
疲勞累積シ体カ極度ニ衰弱シ發病セルモニシテ眞ニ公務ニ起因セルモノト  
認ム

右證明ス

昭和十八年三月四日

獨立混成第四旅團砲兵隊第三中隊 陸軍大尉  
獨立混成第四旅團砲兵隊附 陸軍軍醫少尉

佐藤五郎 弘  
島



式ノ勤務狀況ニ依リ抽象的ニ止マルコトヲク具体的ニ詳記シ以テ罹病ト公  
務トノ因果關係ヲ明瞭ニセラレ度  
左記

- 一 應召(入營)前ノ健康狀態
- 二 入營(應召)時ノ身體檢査及事變地出發迄相當期間ヲ有スル場合ハ出發前身體檢査ノ狀況
- 三 精神及呼吸器系ノ疾患ニ在リテハ血族關係
- 四 内地港灣出發後發病迄ノ勤務狀況特ニ心身ニ有害ヲ及ホシ是カ爲發病ノ原因ト認ムヘキ事項
- 五 船舶鐵道輸送ニ於テ嚴寒炎暑雨雪ノ際夜半ニ及フ過劇ナル軍需品ノ積載ノ卸下一勤務
- 六 船舶輸送ニ於ケル非衛生的環境例ハ深光探照燈通風防暑不充分ニシテ不潔ナル物品監視其值當等ノ任務遂行
- 七 鐵道等輸送間ニ於テ嚴寒炎暑時探照防暑不充分且狹ナル貨車(無蓋貨車)內ニ於ケル非衛生的環境及機關車內及其他ニ於テ列車警戒兵衛兵等諸勤務ノ任務遂行
- 八 事變地到着後氣候風土ノ異ナル地ニ於テ酷寒炎暑ヲ冒シ激烈ナル戰鬥及猛訓練
- 九 嚴寒炎暑時ノ強行軍惡渡旅行地ノ通過及雨中ノ行動
- 十 連續夜間ノ行動及晝夜ヲ通スル繁劇ナル該勤務

付	部	任主	官副級高	長謀參	長團師
水村				田	-

發病狀況

		大	事實現 證明書
		/	病歷書
		/	證明書
		/	死亡 證明書
		/	諸給與金 證明書
		第六十三師團 通信隊	所屬部隊
		後送	送別會
		寫里政明	氏名

左記

石師副人恩第...號  
 恩賞關係書類送付件通牒  
 昭和二十年三月九日 第六十二師團司令部  
 留與第五十三師團通信隊御中  
 左記者對スル首題件別紙通送付ス

昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日
昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日
昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日
昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日
昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日
昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日
昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日
昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日
昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日
昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日	昭和十九年十月十五日

昭和十九年十月十五日

第六十二師團通信隊第一中隊  
 昭和十九年十月十五日  
 陸軍二等兵  
 宮里政明  
 本籍地  
 現住所

事實證明書

一 內地渡海出發年月日  
 一 戰地勤務概況  
 一 勤務概要  
 一 昭十九年十月十五日  
 一 自同年十月二十五日  
 一 發病年月日  
 一 發病場所  
 一 病名  
 一 發病狀況

現投兵、予第六十二師團通信隊第一中隊入營  
 通信隊、在、沖繩本島所衛、依、戰、準備  
 昭和十九年十月二十一日  
 沖繩縣中頭郡浦添村字前田

昭和十九年十月十五日現役兵トシテ當部隊ニ入營シタルモニシテ入營時ハ「フィラリア」  
病患ヲ患ハシムルノミナリテ其ノ他ニ異常ヲ認メザリシ所十月二十一日ヨリ駈歩時右  
睾丸ニ疼痛ヲ覺エ二十三日受診ス。受診時体温三七三度ナリシヲ以テ練兵休  
就寢許可トセルニ同日夕刻ヨリ精神ニ異常ヲ來スニ至リタルヲ以テ二十三日送院ス  
患者ノ血族的關係ハ父母健在同胞三名健妻及子一名健ニシテ精神病ノ素  
因ヲ認メ得ズ既往症トシテ二十二歳時「フィラリア」十八歳時脚氣ヲ認ルルニ  
シテ本發病ニ關聯スルカ如キ疾病ヲ認メ得ズ入隊後ハ有線中隊ニ編入セラ  
レ曰夜現下ノ狀勢ニ即應セテ爲戰訓ニ基テ繁激且難解ナル有線通信教  
練及戰鬥教練ニ從事シ又夜半ニテ夜間演習ニ敵機ノ執拗ヲ來襲セル  
空襲下ニ在リテ晝夜ヲ分テ又退避訓練等ニ默々シテ良ク從事シタルニ給養  
ハ物資不足ノ爲ニ十分ニシテ養素補給消費間ノ不調和甚シク加フルニ入營後  
ル環境ノ變化及操筆語ニ慣熟セシムル努力ハ常ニ精神的過勞ヲ招來シアリタル  
上帶患「フィラリア」發症シ來リ受診ノ結果練兵休ト診斷セラレ一人班内ニ殘留  
セシメラレタルニ依リ責任觀念旺盛ナル患者ニ入之ニ拘泥シ更ニ精神的負擔ト

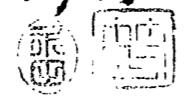
ナリタル事ハ發病後「己」ハ日本境ガアルニ班長ハ戰爭ニ連レテ行カヌト再三  
獨語シタル事實ヨリ明ラカニシテ之等諸因子ノ作用ヨリ遂ニ精神ニ異常  
ヲ來シタルモノニシテ之真ニ大東亞戰役ニ起因セルモノト認ム

大東亞戰役勤務期間 自昭和十九年十月十五日  
至昭和十九年十月二十二日

右證明入

昭和十九年十月二十三日

第六十二師團通信隊長代理 陸軍大尉 竹下 勇  
第六十二師團通信隊附 陸軍中尉 永田 文彦



昭和二十一年一月十三日現在在...  
 第九...  
 ...

昭和二十一年一月十三日現在在...  
 ...

昭和二十一年一月十三日現在在...  
 ...

石通恩第九號  
 恩賞關係書類送付ノ件通牒

昭和廿年參月五日

石第三五九九部隊

石第一八八二部隊御中

首題ノ件左記ノ通送付ノ...

左記

事實證明書	留守業務 担任部隊	所在地	關係 團體通牒 官	氏名
第一三三部隊 第五十三部隊	留守業務	...	...	宮里政明
...	...	...	...	...

陸軍部第一百號  
 陸軍部  
 陸軍部  
 ...

官副級高	長課長	課長	課長	課長	課長	課長	課長
------	-----	----	----	----	----	----	----

東京小津網



石通恩第九號  
 石第三五九九部隊  
 石第一八八二部隊  
 石第一八八二部隊  
 石第一八八二部隊

付	部	任	主	官副級高	長課	云	次
○	○	○	○	○	○	○	○

石通恩第九號

恩賞關係書類送付ノ件通牒

昭和廿年參月五日

石第三五九九部隊

石第一八八二部隊御中

首題ノ件左記ノ通送付ス

左記

事實證明書	留守業務 担任部隊	所在地	關係 隊區	官	氏名
七部	第五十三師團通 信隊補充隊 中前第四士部隊	京都市 賀籠區翠草	沖繩	二等兵	宮里政明

東京小津納

石通恩第九號  
 恩賞關係書類送付ノ件通牒  
 昭和廿年參月五日  
 石第三五九九部隊  
 石第一八八二部隊御中  
 首題ノ件左記ノ通送付ス  
 左記  
 事實證明書  
 留守業務  
 担任部隊  
 第五十三師團通  
 信隊補充隊  
 中前第四士部隊  
 所在地  
 京都市  
 賀籠區翠草  
 關係  
 隊區  
 沖繩  
 官  
 二等兵  
 氏名  
 宮里政明

姓名	高野	主	姓	姓
○	○	○	○	○

事實證明書

本籍地  
現住所

第六十二師團通信隊第一中隊  
昭和十九年徵集 陸軍二等兵 宮里政明

内地臺灣出發年月日

戰地(事變地)到着年月日

勤務概要

昭和十九年十月十五日

自昭和十九年十月十五日

至昭和十九年十月二十二日

發病年月日

發病場所

發病病狀

昭和十九年十月十五日現役兵トシテ當部隊ニ入營シ...

現役兵トシテ第六十二師團通信隊第一中隊ニ入營  
通信隊ニ在リテ沖繩本島防衛ニ作戦準備  
昭和十九年十月二十二日  
沖繩縣中頭郡浦添村字前田

姓名	高野	主	姓	姓
○	○	○	○	○
宮里政明	陸軍二等兵	昭和十九年十月十五日	沖繩縣中頭郡浦添村字前田	現役兵トシテ第六十二師團通信隊第一中隊ニ入營

イラリテ帯患ヲ思ハシムルニシテ其他ニ異常ヲ思ハカリテ十月二十  
日ヨリ駐歩時右腰丸ニ疼痛ヲ覺エ二十一日受診ス受診時体温三  
七三度ナリ以テ練兵休執宸許可トセル同日夕刻ヨリ精神ニ異常  
ヲ來スニ至リテ以テ二十三日送院ス

患者ノ血族的關係ハ又母健在同胞三名健妻及子一名健ニシテ精神  
病ノ素因ヲ認メ得ズ既往症トシテ二十歳時ヨリイラテ十八歳時脚  
氣ヲ認ムルニシテ亦疾病ト關聯スルカ如キ疾病ヲ認得ズ入隊後ハ  
有線中隊ニ編入セラレ日夜現下時局ニ即應セシガ急難解ルル有線  
ニ關スル教育訓練ニ邁進シテ入營ニシテ環境ノ變化及標準語ニ慣  
熟セテスル努力ハ常ニ精神ノ過勞ヲ招來シテ其ノ上帶患ノ分ヨリテ發症  
シ來リ受診ノ結果練兵休ヲ診斷セシ一人班内ニ殘留セシトセル候  
責任觀念旺盛ナル患者一入之拘泥シ更ニ精神的負擔トナリテ事ハ  
發病後ヨリ日本魂カアルニ班長ノ嚴禁ニ連レテ行方又ト再三獨語  
シタル事實ヨリ明ラカニシテ之等諸因子ノ作用ニヨリテ遂ニ發病セ

ルモノニシテ公務ニ起因ス

右證明ス

昭和十九年十月二十三日

第六十二師團通信隊長代理 陸軍大尉 竹下 勇  
第六十二師團通信隊附 陸軍中尉 永田 文彦

此ノモノハ、心神(一)ノ異常ニシテ、  
行ハテ發症(二)ノ原因ニシテ、公務(三)ノ  
過勞(四)ノ結果ニシテ、精神(五)ノ  
衰弱(六)ノ原因ニシテ、  
公傷(七)ノ原因ニシテ、  
公傷(八)ノ原因ニシテ、  
公傷(九)ノ原因ニシテ、  
公傷(十)ノ原因ニシテ、